

ねえねえ、知ってる？

陸前高田の〇〇

こちらのコーナーでは、陸前高田市内で活動する人や団体、地域の取組みや掘り出しものなどを紹介していきます。“取材して欲しい”という方は、センターまでお気軽にご連絡ください！

気仙町

第2弾！長部地区「まちあるき」



長部地区コミュニティ推進協議会は、8月8日（月）、『第2弾 長部地区「まちあるき」』を開催しました。

昨年度は、第1弾として「長部の歴史と防災について伝えていく」ために開催しました。今回は「**現在工事を進めている三陸沿岸道路長部高架橋について学び、子どもたち自身で高架橋に『愛称』を付ける**」ことを目的としています。

この高架橋は車両専用道となるため、完成前である今しか人が歩くことができません。長部地区コミュニティ推進協議会には、“子どもたちに今後もこの地域への関心を深め、新しくできる高架橋も地域の一部と感じてほしい” “自分たちが小学生だったときに完成した高架橋の『愛称』は、自分たちがアイデアを出し合って考えたということ、世代を越えて語り継いで欲しい”という願いがあり、長部地区の子どもたちを対象にぜひ歩かせたいとの気持ちがあふれていました。

当日は、高架橋がどのようにして作られているのかなど、工事を担当している鹿島建設様から模型や子どもたち用の資料を使って教えていただき、高架橋を実際に歩いた後には、愛称を考える時間をもちました。子どもたちからは、「高かった」「こわかった」「早くできればいいな」など、たくさんの感想がありました。



愛称に使いたい言葉を考えている子どもたちの真剣な表情を間近に見ることができ、協議会も「企画して良かった」と感じていました。

各グループから出し合った愛称は、最終的に“**未来へかそく 長部ブリッジ**”と決まりました。子どもたちの思いが詰まった素敵な愛称ですね★（黄川田）

小友町

八幡神社五年祭



10月9日（日）、10年振りに大祭として開催された五年祭。八幡神社総代長である**及川常明さん**にお話を伺いました。

五年祭を終えての一言を聞かせて下さい。



4年前は震災があって、神事だけだったから大祭としては10年ぶり。郷土芸能を伝承する意味でも「今やらないといけない」と感じていた。指導できる人も少なくなってきたからね。

お祭りは地域の団結を図るきっかけになる。震災後に小友町に移転した人も増え、町内には災害公営住宅もできたが、新しく来た人も地域の人どうしてもお互いに遠慮して当たり障りのない関係になってしまう。でも、お祭りに参加することで交流が増えて知り合いもできる。そこから地域に溶け込み、その一員になる実績ができる。**地域の連携がまちの復興に拍車をかける起爆剤になれば**との思いもあってね。

当日はとても賑やかだった。どの部落も一生懸命練習して成果を上げたと思う。その練習が会場のみんなを喜ばせることができたんだな。

会場の大漁旗はすごかったですね！

あれは俺のただいアイディアだよ。今回、漁港が工事中だけどお祭りを盛り上げるものにしたかった。只出地区に相談したら、地区が持っているものが80枚ほどあったんだ。古くなって使わなくなった旗を公民館に寄附してきたものだから「あの旗はあの時のだなあ…」とか懐かしむ声がたくさんあがっていて、それもよかったなと。

総代長として苦労された部分は？

段取りだな、そこが一番大変。でも、各部落、実行委員会（84名）、コミセン、その他もみんな協力的に動いてくれて、だから開催できた。これまでのつながりで地域の人と顔が見える関係になっているのが役立つよね。でも、これは**普段からの付き合いが大事だし、人のために尽くしたりお世話をしていることが、何かの時に自分に返ってくるし、これこそ「財産」だ**と思うよ。

お話を聞いて「**地域の団結をはかりたい**」という及川さんの思いがとても伝わってきました。実際に、お祭り前は会釈するぐらいだったけれど、その後は手を上げて挨拶するようになったという話も聞こえてきているようですよ！「人と人が近くなる」と顔が見える関係づくりになっていきますね！（酒井）

